

南区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
第23回南区ふれあいまつり		南区ふれあいまつり実行委員会			
事業目的	事業内容	活動指標	H29	H30	R1
南区に住む人々や働く人々が南区ふれあいまつりを通じて、コミュニティの輪を広げ、地域の歴史や伝統を発見するとともに、わがまちを愛する心を育み、地域社会の発展に寄与することを目的とする。	各校区の推薦団体を中心としたステージ 各校区模擬店 各種協力団体出展 絵画・フォト展	来場者数	約16,000人	約17,000人	約20,000人
		主催側参加者数 (出展・出演・スタッフ等)	1,378人	1,524人	1,586人
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性		
○ 地域住民にふれあいの場を提供することで、区民に自治意識や連帯感が芽生え、区域全体の利益につながることから、区が関与すべき事業である。	◎ 南区自治連合協議会と南区長で構成する実行委員会が企画を行い、地域住民と区職員が当日の運営スタッフとして関わることで、交流が促進されており、協働の度合いが高い事業である。	○ 各校区をはじめ、南区内の各種団体が多数出展・出演するとともに、本市事業の啓発の場として各所管課も参加するなど、区の最大のイベントとして定着している。 また、各校区から様々な年代の団体がステージを盛り上げ、来場者へのインパクトもあった。	○ 市の負担金だけでなく、校区負担金や企業等からの協賛金もあわせて運営資金とし、財源の確保に努めている。 また委託業務の仕様見直しによるコスト削減や、マンパワーの活用等により、地域と行政が一体となって効率的・効果的な企画・運営を行っている。		
⑤自立発展性	総合評価				
△ 本事業は、南区最大のイベントであり、実施にあたり各種団体との調整業務が非常に重要となっている。そのため、安全かつ効果的、効率的に事業を行うためには、区が事務局として関与する必要がある。	○ 天候に恵まれたこともあって、約20,000人の来場者があり、南区最大のイベントであることが再認識できた。また、参加者と来場者間の交流が深まったことで、コミュニティの輪が広がり、区民の地元愛が育まれた。 模擬店では各出展団体の特色を生かして出展いただくとともに、ステージでは各校区からの推薦団体が多種多様なパフォーマンスを披露したことで、大人から子どもまですべての世代の方々に楽しんでいただけるような催しとなった。				
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加や開催に関する問い合わせも多く、南区最大のイベントとして定着し、地域コミュニティの醸成やまちの活性化において重要なイベントであるため、今後も継続実施を行う。 ・ 今後はマンネリ化を防ぐとともに、来場者数の増加につながる催しを企画する。 ・ 委託業務の仕様を中心として、業務の見直しをすることで、事業をより効率的・効果的に実施する。 				